

公共工事イメージアップ事業について

大西 孝司

徳島県 西部総合県民局県土整備部<美馬> (〒779-3602 徳島県美馬市脇町大字猪尻字建神社下南73)

道路利用者に不便を強いる通行制限や騒音・振動・粉じん等を発生する工事現場への不満や改善を求める声が増加している。特に観光地周辺の道路工事では、地域住民だけでなく多くの観光客が利用するためその傾向は強い。そこで「ゆるキャラ」人気を取り入れ、徳島県マスコットである「すだちくん」を工事現場の看板や案内板に掲示することにより公共工事のイメージアップを図る取り組みを実施した。さらにアンケート調査を実施し、イメージアップ効果等を検証した。

キーワード ゆるキャラ、公共工事イメージアップ、工事看板、すだちくん、コケキャンバス

1. はじめに

徳島県は、県土の約75%を森林が占め、北部には東西に流れる水量豊富な一級河川吉野川とその両側に讃岐山脈や四国山地の山々が連なっており、東部には紀伊水道に面した美しい海岸線が広がるなど、自然環境に恵まれた風土となっている。

特に西部圏域は、写真-1のように吉野川沿いに平野部が少なく、山林地帯が多い地域であるため、「剣山」や「大歩危・小歩危」に代表されるように、豊かな自然環境や自然が織りなす“景観”そのものが観光資源となっている。また、「かずら橋」や重要伝統的建造群保存地区である「落合集落」などは、この豊かな自然と人工物が一体化となって“景観”を生み出しているものであり、毎年多くの観光客が訪れ、県内有数の観光名所となっている。



写真-1 三好市からの展望

県土整備部は、地域住民の生活道や観光客の安全

な通行を確保するために、県道や県管理国道の整備、修繕、災害復旧等を実施しているが、しばしば道路利用者から公共工事に対する不満や苦情が寄せられており、その中には観光地周辺の土木工事や通行制限だけに止まらず、味気ない・煩雑な**工事看板**の改善に関する意見も増加傾向にある。

2. 公共工事イメージアップへの取組

徳島県では、平成18年度から県産木製品の利用拡大を目的とした「木づかい運動」を促進しており、翌平成19年度からは県発注工事において県産木材を使用した「工事看板」や「バリケード」等を優先使用する施策に取り組んでいる。

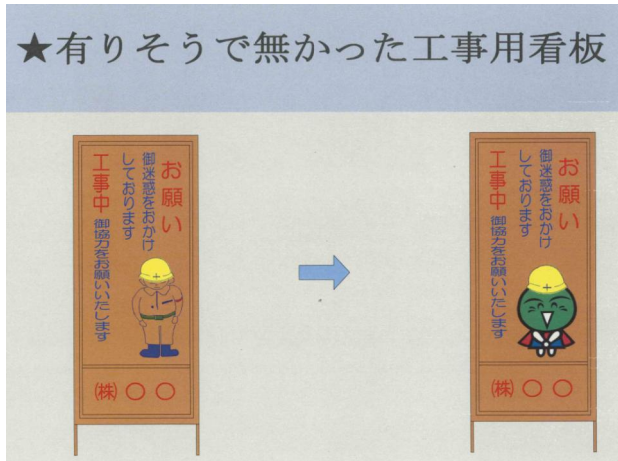
さらに平成20年度に西部総合県民局管内を圏域とした「にし阿波観光圏」が国土交通省より認定を受けたことをきっかけに、魅力あふれる観光圏づくりを推進することが求められ、定着しつつある「県産木材を利用した工事看板」に加えて、景観とイメージアップを目的とした新たな取組が必要となった。

(1) 工事看板の改善

平成23年度に、「新規事業の発案」などを通じて、職員の政策企画立案能力の向上と西部圏域並びに県土整備部が抱えている課題解決への取組等を目的として、西部総合県民局県土整備部各担当の若手職員から成る「**新規事業・施策提言等企画立案作業チーム**」を立ち上げた。

この中から「ゆるキャラ」人気を取り入れ、工事看板を改善することにより工事現場のイメージアップ

プを図る取り組みの提案があった。キャッチコピーは”有りそうで無かった工事用看板”（図－1）であり、キャラクターは徳島県マスコットである「すだちくん」（図－2）を使用することにした。この取り組みは、平成24年度の新規事業（ゼロ予算事業）としてスタートした。



図－1 看板のイメージ（案）



図－2 すだちくん

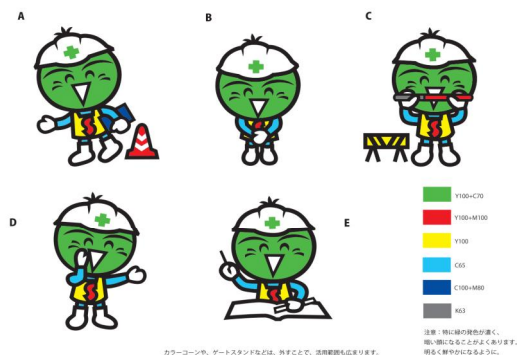
徳島県マスコットである「すだちくん」は、愛らしいマスコットとして人気も高いことから、通行制限等で不満を感じている道路利用者の”イライラ”や”怒り”の軽減、3Kで代表される工事現場のイメージの払拭等が期待できる。また、県内外からの観光客の目に触れることにより”ゆるキャラ”としての「すだちくん」の知名度アップも図れるなど幅広い効果が期待できる。

（2）「安全すだちくん」の誕生

工事現場内で掲示するためには、従来の「すだちくん」ではなく、ヘルメットを着用した工事現場仕様の「安全すだちくん」が必要である。デザイン画管理担当やデザイナーと協議を重ね、これまで「すだちくん」の特性から小さなヘルメットしか着用させな

かったという前例を打ち破り、頭の上半分をすっぽり覆う大型のヘルメットを着用した新デザイン作成に成功した。さらにいろいろな目的で使用できるように、5パターンのデザイン（図－3）を作成した。

新しい「安全すだちくん」は、工事看板等に掲示する以外にも、工事現場の安全を啓発・PRする目的もあることから「安全すだちくん」と命名した。同時に使用取扱規程を作成し、西部総合県民局県土整備部が「安全すだちくん」を管理することとなった。平成25年度から「すだちくんの」無償使用が可能となったことから、官民の区別なくこれまで以上に利用しやすくなった。



図－3 安全すだちくんのデザイン画

（3）「安全すだちくん」の工事看板への活用

平成24年7月にA3サイズの「安全すだちくん」シールを作成し、西部管内の観光地周辺で施工する県発注の道路工事においてシールの掲示を開始した。（写真－2参照）

三好管内ではかずら橋・剣山方面に通じる山城東祖谷山線、西祖谷山山城線、国道439号の3路線、美馬管内では剣山方面へ通じる国道492号、国道438号、国道439号の3路線、また「うだつの町並」や「吉野川ハイウェイオアシス」への観光客が多いことから主要地方道 鳴門池田線も対象とした。平成25年度からは西部管内全線で実施し、管内だけでなく、県工事を中心に公共工事への積極的な活用に向けて取り組んでいる。



写真－2 工事看板への活用例

(4) アンケート調査の実施

事業効果を調査するため、主に県外観光客が多く集まる吉野川ハイウェイオアシスにてアンケート調査(写真-3)を実施した。(徳島自動車道ふれあいキャンペーン事業共催)

調査は、平成24年10月7日(土)の午前9時～午後1時30分の時間帯に吉野川サービスエリア上下線で同時に実施し、回答者数は377人であった。



写真-3 アンケート調査実施状況

調査結果から、道路工事の通行制限で不快に思ったことが”よくある”または”時々ある”と回答した人は全体の約7割であり、通行制限を伴う公共工事を不快に思っている利用者が多いことがわかった。「安全すだちくん」看板については、「看板の印象」についての質問(複数回答)に対し、図-4のとおり”イメージが和らぐ”や”目新しい取組”という回答が多かった。

また、「この看板を設置することによりイメージアップ効果があるか」という問いに対しては、図-5のとおり”ある”が48%,”少しある”が41%となり、約9割の人がイメージアップ効果があるという回答であった。

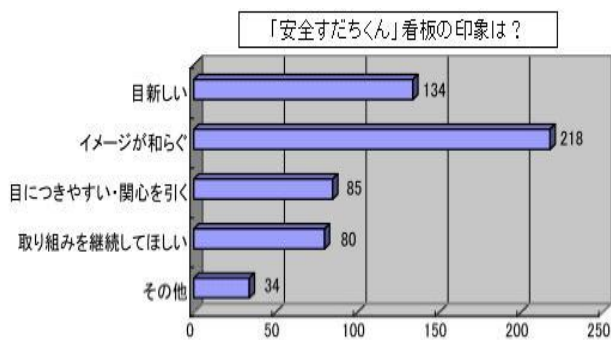


図-4 アンケート結果①

イメージアップ効果があるか?

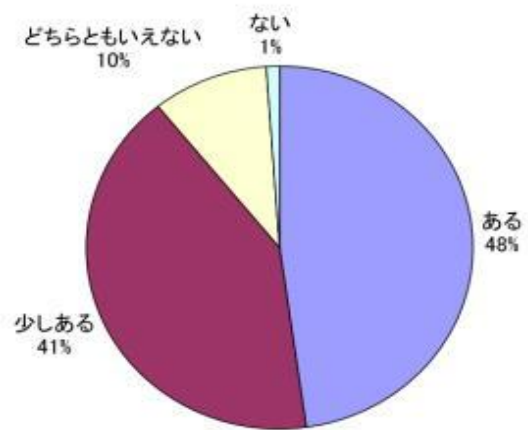


図-5 アンケート結果②

(5) イメージアップ活用事例

今回作成した「安全すだちくん」は、工事看板や現場掲示板等での活用以外でも、土木関連冊子や名刺等に印刷することにより、”堅い”イメージの緩和や”目新しさ”を付加する事ができ、”ひと味違った”資料作成が可能である。(写真-5, 写真-6 参照)



写真-5 名刺への活用



写真-6 事業概要書への活用

さらに、地域住民を対象とした事業説明会や土砂法に係わる説明会開催時のプレゼン資料に活用することにより、参加者から親和度や関心度が上がったという意見があった。また、県発注工事以外の工事でも活用される例も増えている。写真－7は、国土交通省発注の河川工事で活用された例であり、遠くからでも見られるように大型のシートを作成し、イメージアップを図ったものである。



写真－7 国道192号から見た工事現場



写真－8 民間での活用事例

このほか、写真－8のように民間活動でも使用され始めている。写真左は、地元建設業協会のPRイベント用に作成されたポロシャツである。写真右は、県内の安全用品販売メーカーが製品化している工事用看板である。このような民間での活用事例から分かるように、注目度やイメージアップ効果が高い取組である。

(6) コケキャンバスの活用

「ゆるキャラ」人気は、県・市・町・村の知名度アップや観光地、特産品等のPRに大いに効果が期待できる。本県においても平成25年度から「すだちくん」の知名度アップを目指して「ゆるキャラグランプリ2013」に参戦した。

この取り組みと観光地のイメージアップを兼ねて、観光地周辺で観光客の目に付きやすい箇所にある既設道路擁壁のコケキャンバスに「すだちくん」

や「安全すだちくん」をメッセージと一緒に描写するコケキャンバスPR事業(写真－9、写真－10)を実施した。



写真－9 制作・描写状況



写真－10 コケキャンバス完成

4 まとめ

「ゆるきゃらグランプリ2013」における「すだちくん」の順位は、12位(参加数1,579)であり、大きな成果となった。この成果を徳島県行政にどのように役立てていくかがこれからの課題である。

今回先行して取り組んだ「ゆるキャラ」がもたらす効果を活用した公共工事イメージアップ事業は、工事現場等のイメージアップに有効な手法の1つである。また、官民にとらわれずイベントや建設業のPR等で積極かつ効果的に活用すれば、公共事業だけに止まらず建設業のイメージアップ効果も期待できる。

参考文献

1)ゆるキャラグランプリ URL:<http://www2.yurugp.jp/>